

## 東京講演会を開催

2018年10月13日に東京の有楽町朝日ホールにおいて、第10回東京講演会を開催しました。この東京講演会は、日頃、関西を中心に活動している奈良文化財研究所の調査・研究活動の成果を、広く東日本の皆様にご紹介することを目的に2010年から始めた企画です。毎回、切り口を変えて文化財研究の魅力や面白さ、最新的话题をお伝えしており、今回は「藤原から平城へ—平城遷都の謎を解く—」と題して開催しました。

藤原京は694年に完成し、飛鳥から藤原へ遷都しました。条坊街区を備えた藤原京は、天武天皇と持統天皇が国家の威信をかけて造営した律令国家建設のまさにシンボルでした。ところが710年には平城京への遷都がおこなわれ、藤原京はわずか16年の短命に終わってしまいました。平城遷都、藤原廃都をめぐっては、これまで様々な解釈がなされてきましたが、どれも定説にはいたっていません。

今回の講演会ではあえてこの平城遷都の謎に挑むことにしました。平城宮跡に関わる文献資料、建物の移築、儀式にともなう幢旗遺構、瓦からみた造営過程、藤原京の造営思想、奈文研本庁舎建設にともなう発掘調査であきらかになった平城京建設の大土木工事等、様々な観点から総合的にこの謎に迫り、日本古代国家の建設過程の実態解明に重要な成果をあげた最新の調査研究事例を6名の研究員から紹介しました。

当日の来場者は530名で、10時から16時にわたる長丁場の講演会でしたが、メモを取りながら熱心に聴き入る方も多く見受けられました。多数の方にご来場いただき、ありがとうございました。

(研究支援推進部 津田 保行)



講演会風景